

2011 年度防災教育チャレンジプラン 活動報告会

成果発表

配布資料①

実践団体 No. 2

千葉県立東金特別支援学校

防災発信・防災交流

～北之幸谷から二市四町へ～



**防災教育
チャレンジプラン**

防災教育チャレンジプラン

防災発信・防災交流 ～北之幸谷から二市四町へ～

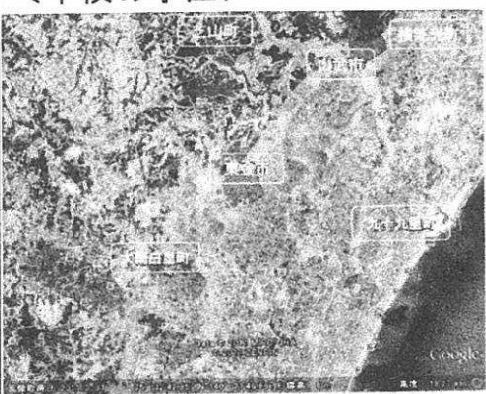
千葉県立東金特別支援学校

大空まで響く 明る
い笑い声は 輝く目
光る汗 ワッハッハ
作詞・作曲 はなわ

自立をめざして、かがやく瞳、ひかる汗



<本校の学区>



- 宮城県
名取市と
似た地形
- 海まで
約8km
- 海拔
約8m

本校の概要(特色)

- 知的障害を対象とした初の県立学校として昭和48年4月に開校。
- 県内知的障害特別支援学校では唯一の寄宿舎設置校。
- 学区は、東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町の2市4町。
- 児童生徒数は、小学部38名、中学部36名、高等部79名、合計153名。
- 知的障害を中心に、自閉症、肢体不自由、聴覚障害など他の障害を併せ持つ児童生徒の、多様な教育的ニーズをふまえて「輝く瞳光る汗」を合い言葉に、「チームワーク」と「創意工夫」による教育活動を展開。

<空からみた東金特別支援学校>



3. 11 地震発生直後の様子



目的

- 合同防災訓練を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。
- 講演会や防災安全マップの作成等を通して、地域との情報の共有を図る。
- 授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。

本校の実践

地域と一体となった防災教育の推進を目指して、東金市、社会福祉協議会(市及び地区)、北之幸谷区自治会等に呼びかけて「防災教育担当者会議」を立ち上げ、地域・PTA・学校の協働による防災教育に取り組んでいる。

- (1) 授業を通して
- (2) 児童生徒会活動を通して
- (3) 地域との合同防災行事を通して

主な取り組み

- (1) 授業等を通して
 - 図工・美術(防災マルチパーテーションの作成)
 - 作業学習(防災リュックや節電対策製品の開発)
 - 調理実習(缶詰や保存食等を活用しての調理体験)
- (2) 児童生徒会活動を通して
 - 被災地への支援活動 防災安全マップの作成
 - 非常食の調理や炊き出し体験
- (3) 地域との合同防災行事を通して
 - 防災シンポジウム(8/23:東金文化会館)
 - 夜間合同防災訓練(9/26:寄宿舎)
 - 地域との合同防災訓練(10/4:全校 校舎内)
 - 防災教育公開授業(10/5:高等部)
 - 地域(消防団、子ども会)、PTAと合同防災訓練(1/28:全校 体育館とグラウンド)

共有そして発信

地元地域との情報の共有
そして学区への情報発信

2011年度防災教育チャレンジプラン



(内閣府)

平成23年度地域との連携を深める
防災教育公開事業(千葉県)

防災シンポジウム

～みんなで考えよう

地域防災～

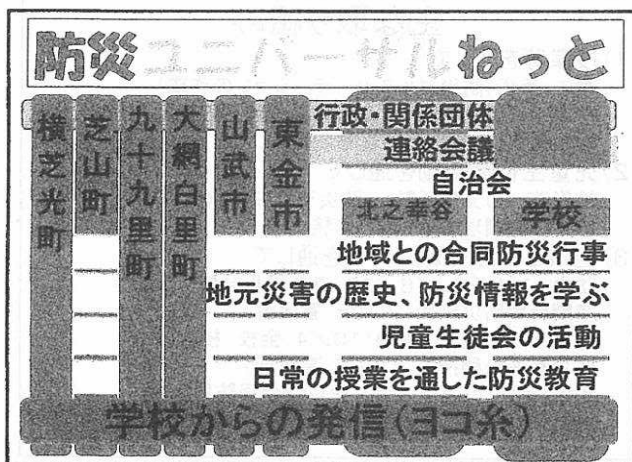
8. 23 東金文化会館

- ・ 地元災害の歴史を学ぶ
「元禄地震・大津波等から学ぶ防災について」
元県立東金高等学校長 郷土史・元禄地震に関する調査研究等多数 古山 豊 氏
- ・ 最新の取り組みから学ぶ「想定外を生き抜く力 命を守る主体的姿勢を与えた釜石市津波防災教育に学ぶ」 群馬大学大学院 教授 片田 敏孝 氏
- ・ 地元の被災地支援報告から学ぶ「山武市の被災地支援ボランティア活動から」 山武市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター 須田 高 氏
- ・ シンポジウム 震災からの困ったこと 考えたこと 問題点を出し合って皆で考えていく
- ・ 地域の方々、自主防災会、教育関係(保育所から大学まで)、福祉関係、県・市議会の参加約330名

シンポジウムで生徒会の活動発表(掲示)

PTAと協力して義援金の呼びかけ





防災ユニバーサルねっと

- ・シンポジウムにてアンケート(回収102名)
- ・とてもよい・よい(88%)
- ・よくわからない・未回答(12%)
- ・とても関心がある・関心がある(75%)
- ・あまり関心がない・未回答(25%)
- ・8団体1個人 ネットワークへの参加や協力を希望

組織をつなぐ(学区の二市四町＝山武地域)

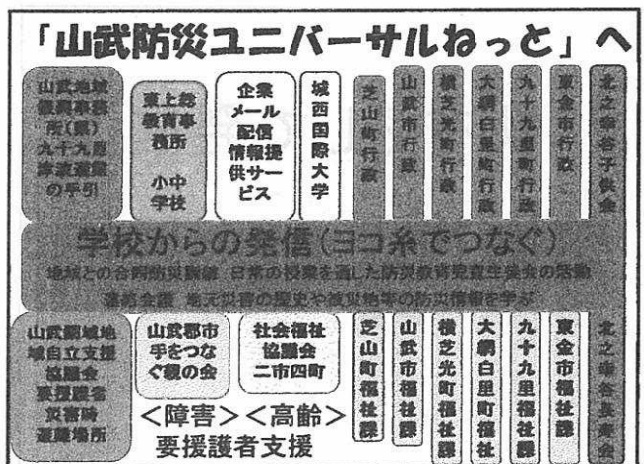
行政 千葉県山武地域振興事務所(県の機関)

○山武地域行政連絡会議で

- ・九十九里版津波避難のガイドライン作成(市町村行政向け)→県知事からも推進をと)
- ⇒要援護者、防災教育の視点を盛り込むよう依頼
- ・避難者カードの統一やエリアメール等の契約促進

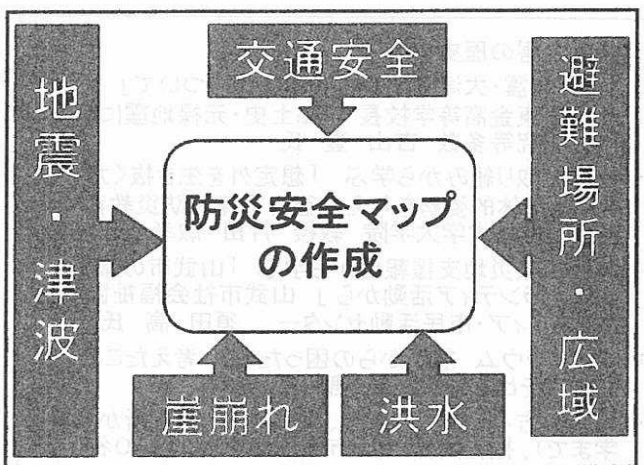
福祉(要援護者) 山武圏域地域自立支援協議会

- ・シンポジウム(7月)「震災における要援護者支援とは」 学校長がシンポジストとして参加
- ・災害時の障害者支援対策について福祉施設等へアンケート

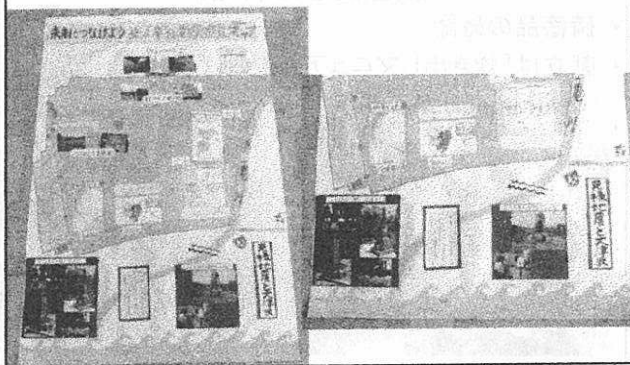


地域からの期待

- ・市と県の連携
- ・地域住民を受け入れる学校の体制
- ・防災安全マップ
 - 地元を中心として作成
 - 広域なものを作成
 - e防災マップの活用



「未来につなげよう北之幸谷 防災安全マップ」



避難場所 海から続く川



- ・ 県内(旭市)の
津波被害の
写真を見て...
津波供養碑との
関連付け



元禄地震の大津波



- ・ 九十九里沿岸に
供養碑が点在

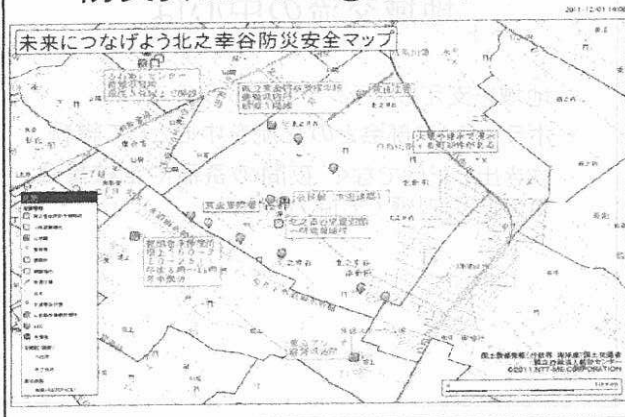
沿岸に住む生徒会生徒に

○もし地震が起きて津波警報が出たら...

- ・ どうやって逃げるのが早い？
- ・ 車を使用するときの問題は？
- ・ 街中で逃げる方向がわからなかったら？
- ・ 高い建物がなかったら？

生徒が考え、答えるような質問の仕方
たくさんの答えを考えるように

防災安全マップ①北之幸谷区



防災安全マップ②広域 津波・崖崩れ



交 流

地域との炊き出しや合同防災訓練

8月 地域のボランティア部会の方と 炊き出しの体験

- 備蓄品の確認
- 献立は「炊き出しマニュアル」
(NPOcamper)から選ぶ



お互いの名前を覚えて

- やり方を教わって
- できることを分担
- 昔、学校では...



防災カードゲーム「なまずの学校」



- 非常食の試食
(今後の備蓄の参考に)



「普段かかわることのできないボランティア部会の皆さんと一緒に交流をさせていただきながら炊き出しができて、とてもよい経験となりました。」

「一緒に作ったカレーは美味しかったです。」

「こまった時のホット！ライス！の作り方も確認して分かりました。」

「今後、地震や津波が起きた時に、今日のこの経験を活かして炊き出しなどができるとよいと思います。」

地域交流の中心は

- 地域を支えるボランティア部会の方々
- ボランティア部会との交流を中心として継続
- 炊き出しだけでなく 夜間の寄宿や全校集会での防災訓練でも協力

寄宿舍で夜間の防災訓練9/26 地域の大学生・ボランティア部会と

- 自治会組織のつばさ会の主導で
- 夜間の行動の仕方を学ぶ
- クロスロードを意識して



- 暗闇体験 感想発表
- 防災ゲーム
「緊急時に持ち出すものは？ 火を何で消す？」
自分の意見をもつ たくさん考える
「津波警報が出たら 遠くへ？ 高いところへ？」
少ない意見を尊重
- 保存水の試飲
- 寄宿舍生徒24名
ボランティア部会6名、城西国際大学生3名

地域に住む大学生 準備から



暗闇の体験



避難の時に持っていくと役に立つ物 たくさん考え出したグループが勝ち



ラジカセから火が... 何で消す？ たくさんの方をを考えよう



名前を覚え 最後は握手で



児童生徒会集会(防災集会)10/4 地域の長寿会・ボランティア部会と

- ・ 小学部、中学部、高等部、職員
地域の婦人、長寿会の
縦割りグループによる交流
- ・ 校内を指示書に従って防災関連グッズを探す
- ・ 探しに行く途中に緊急地震速報の音源を使用

長寿会の方より

- ・ 鶴嶺小は昔、東金小といい分校が四つあった
八鶴湖の下の東金幼稚園が昔は分校の一つ
だった
- ・ そこから山の上の公園に行く道が昔はあり
津波から逃げる道として教えていた
今は その道はなくなった...
- ・ 東金市は防災について協力的ですか？...
- ・ 長寿会とボランティア部会の連携はあるが
子ども会との連携があると...

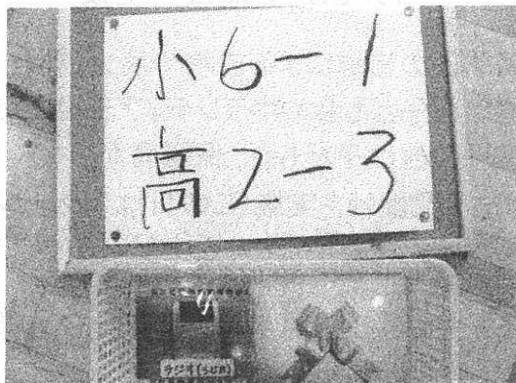
- ・ 姉妹学級縦割りグループ
ボランティア部会3名
長寿会16名(最高齢92歳)が加わり
校内を探検
避難グッズを探し出し持ってくる
- ・ 途中で 緊急地震速報が流れ 避難をする
- ・ 「どこで流れたか」「どう避難したか」を発表

- ・ 長寿会の方は前日から下見にきてくださった
「同じ北之幸谷に住んでるけど
久しぶりにこっちにきた」
「なつかしい 何年ぶりかしら」
「初めて来たわ」
 - ・ 落ち着いて行動していて感心した
 - ・ 机の下にすぐにもぐっていた
「わたしが入るために 椅子を出してくれた」
- 生徒会 地域の方と関わってよかった
また一緒に活動をしたい ← 双方からの意見

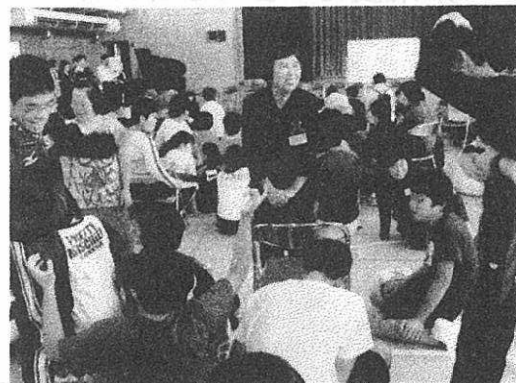
地域に住むおじいさん おばあさん



グループは姉妹学級で



名前を言って自己紹介



さあ 校内へ 避難グッズを探し出そう



緊急地震速報が流れた
さあ どうする...



ぼくはここへ
いしばしさんはそこにもぐって



何を探し出したか
緊急地震速報が流れた時どうしたか



非常食は どんな味かな？



地域、PTAと合同防災訓練 1/28(土曜日):全校

- ・消防団の指導による放水や消火体験
- ・地域の子ども会やボランティア部会と交流
- ・感想発表は子ども会、保護者からも
- ・引き渡し訓練を実施(この日はスクールバスは運行せず、デイサービスや自主通学生徒の確認も訓練に含めて実施)
- ・子ども会は校舎見学と防災安全マップ確認

消防団と東金市総務課消防安全係と 2回の事前打合せ(県立である本校と市 や消防団とのつながりがなかった)



放水体験・消火体験 当日は20名の消防団が参加

- ・地域の方は腕章に名前を
- ・本校児童生徒職員は名札を
- ・管理職や防災担当者がはっきりわかるように



引き渡し訓練 「引き渡し確認掲示版」の使用 3.11の反省から 誰が見ても状況が分かるように

引き渡し確認状況表(高等部)			
出席(○印)	引き渡し訓練の予定	引き渡し完了(○印)	引き渡しの時間と
	保護者確認・一線下校		
	保護者確認・一線下校		
	保護者確認・自主通		
	保護者確認・一線下校		
	保護者確認・自主通		
	保護者確認・一線下校		
	保護者確認・一線下校		
	保護者確認・一線下校		
	児童デイ		

授 業

特別支援学校における
防災教育のポイント

5月 運動会では...
応援団が被災地に向けてエール



未来につなげよう 東北&東金

高等部
生徒会



6月～7月 自分たちにできること
被災地支援 未使用のタオル集め



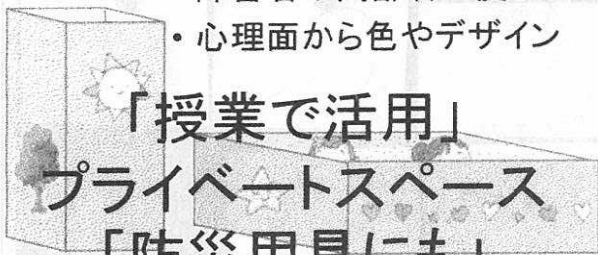
ふれあいセンターへ避難場所の確認
8月 タオルを社会福祉協議会へ



防災 マルチパーテーション

- ・ 障害者や高齢者に優しく
- ・ 心理面から色やデザイン

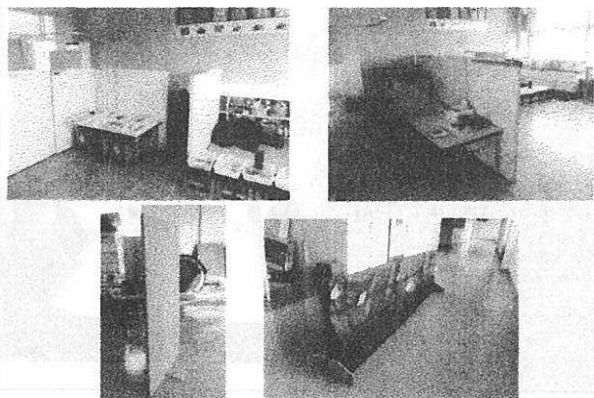
「授業で活用」
プライベートスペース
「防災用具にも」



防災マルチパーテーション 作成のポイント

- 普段の学習で使っているものを
有事の際には避難場所に持っていくことで
安心して過ごせるのではないかと
- ・ デザインは過ごしやすさや安心できる絵柄
- ・ イメージプロフィールで色合いを決める
- ・ 木材、布、プラスチック段ボール等
材質や強度の検討
- ・ サイズや収納
- ・ 縦割りグループの美術の授業で

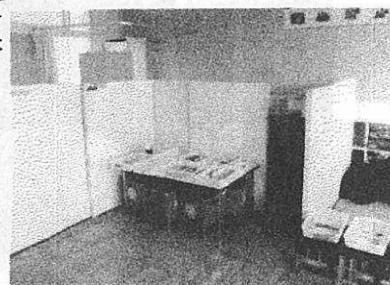
パーテーション(授業で活用)



教室で使用するサイズ

- ・集中できるように
児童生徒の視覚情報を遮断
教師は上から見て
様子が分かる高さ

高さ115cm
横幅90cm



遊びや運動で使用するサイズ

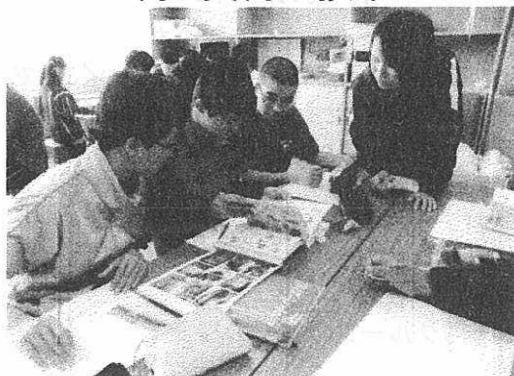
- ・三輪車等の乗り物に乗った状態で
児童の頭が見える
高さ78cm
横幅180cm
- ＜有事には＞
- ・片面の布を取り外すと
高さが倍になる
- ・布は
いろいろな物に使える



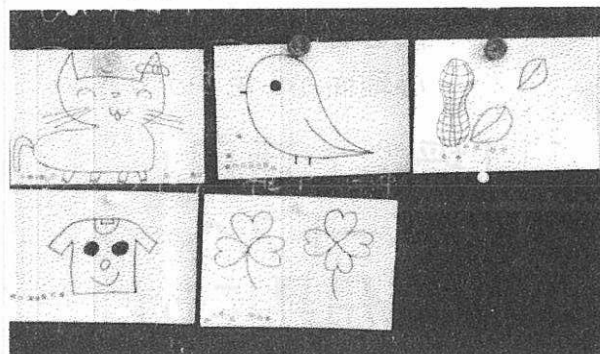
校外トイレ用

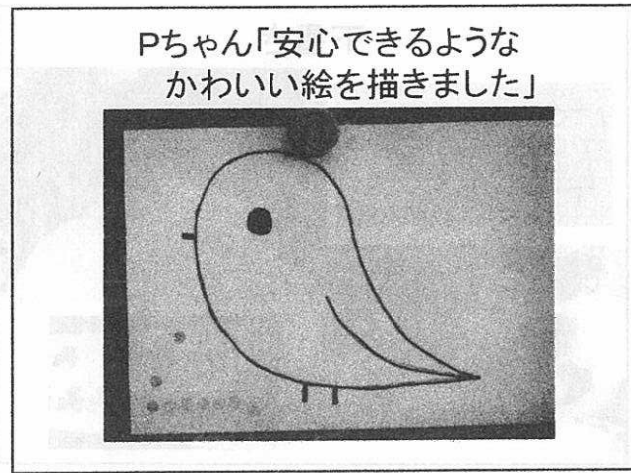
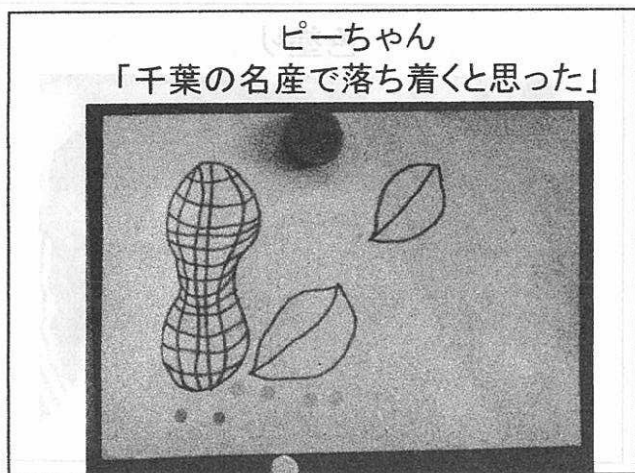
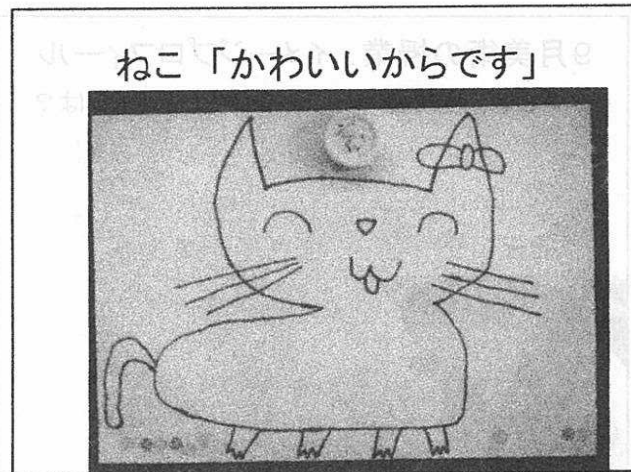
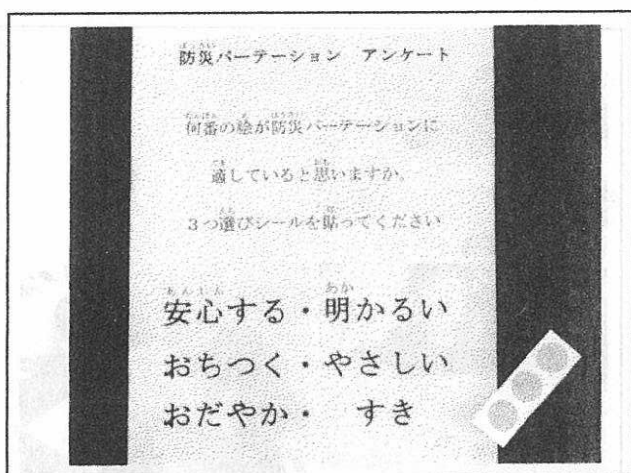


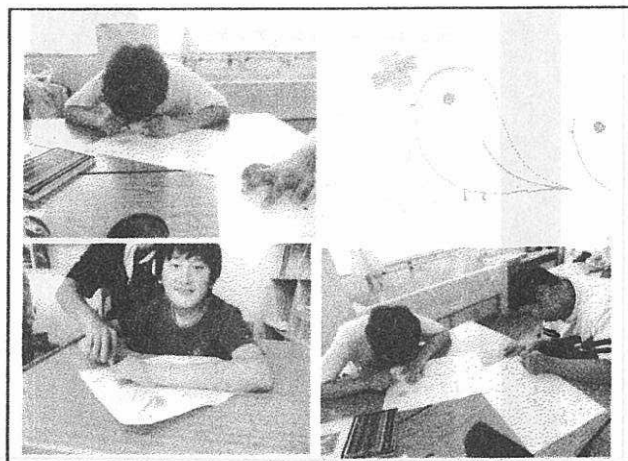
5月 美術の授業



防災マルチパーテーションの下絵

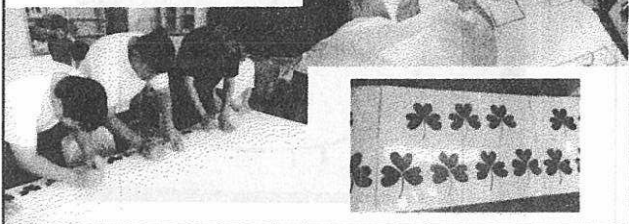
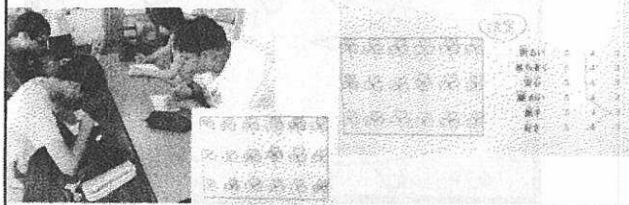


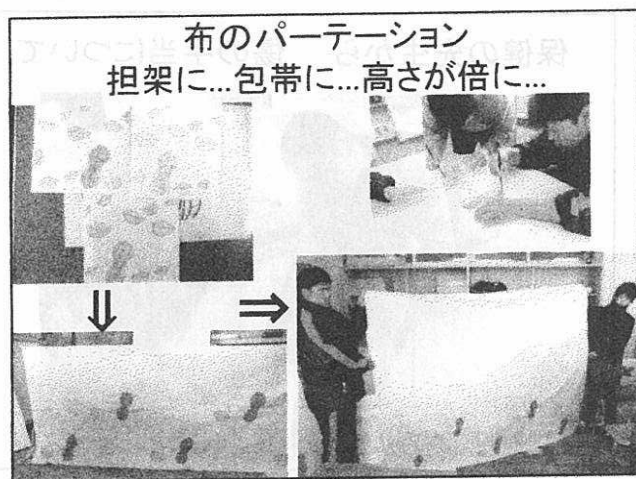
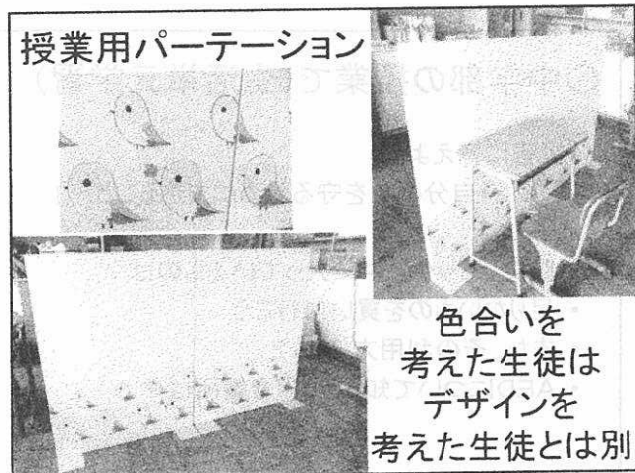
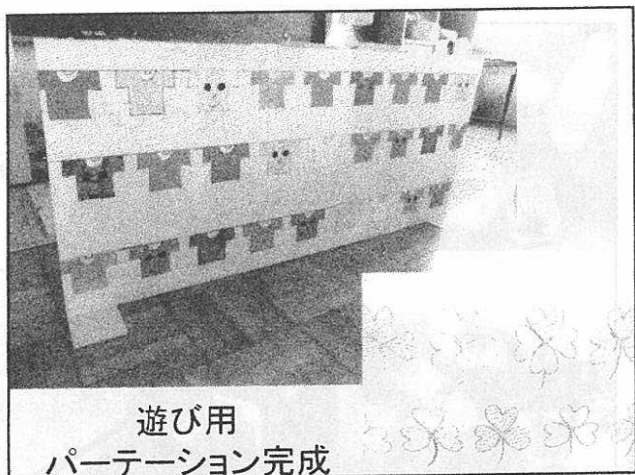




・災害時 理想のパーティションのイメージは？

滑るい	5	14	1	1	1	時い
降る着く	5	4	1	1	1	降編
旅心	5	4	1	1	1	や女
腹力い	5	4	1	1	1	きたる
OK手	5	4	1	1	1	絶味
好き	5	4	1	1	1	きらい





○中学部の授業で(生活単元学習)

「災害に備えよう

～自分の身を守るためにできること～」

- ・ 防災リュックの中に入っているものは？
- ・ 足りないものを買に行こう
- ・ また、その利用方法は？
- ・ AEDについて知ろう 置き場所は？



買い物へ

食べてみよう

中学部 生活単元学習 防災って何だろう？

非常用持ち出し袋の中は？救急車やAEDについて



保健の先生から 傷の手当について



○緊急地震速報の活用 (緊急地震速報利用者協議会)

- ・ いつ起こるかわからない
- ・ 避難訓練の形を変える
- ・ 第2回地域との合同防災訓練で
- ・ 大津波警報を想定した避難訓練で
- ・ 自主通学生徒集会で

高等部の生徒へ防災教育講座

- ・ 危機管理アドバイザー

国崎信江先生より 10/5

「災害から自分で自分の身を守るために」

電車に乗っている時の体の向きは進行方向
体重の4倍ある物は危ない
2階にいたら1階に降りない
災害伝言ダイヤル171 等



自分の心配ごとを
たくさん質問

第1回(10/5) 高等部自主通学生徒集会

災害時の「ほうれんそう」 ～緊急時のコミュニケーション～

- ・震災時を思い出しながらブレインストーミングをしたり、具体的な場面設定でロールプレイングをしたり
- ・災害時に必要となるコミュニケーション手段のスキル獲得に向けて

ほうれんそう の復習(ふくしゅう)

ほうこく: 無事に家に着きました
依頼の結果

れんらく: 電車が遅れています
人とのつながり

そうだん: いつ電車が出るかわかりません...
意見をもらう

①自分の意見をもつ

- ・「朝の通学中」「家でねている時」「家のお風呂で」
地震が起きたら
- ・Ⅰ 自分でどうする? 次に...
- ・Ⅱ 誰に、どうやって助けを求める?

①自分の意見を言う

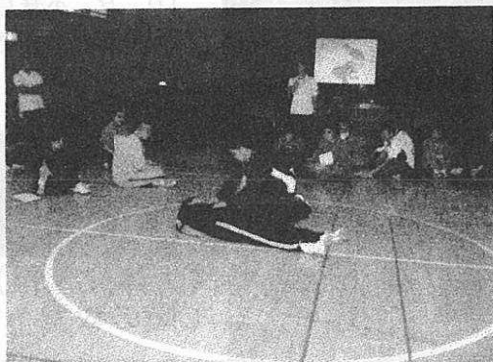
批判やコメントはいりません
言いたいことは心の中に
自分がどう考えるか「言う」
他の人はどう考えているのか「聞く」

その人の気持ちになって

設定① 下校途中に見つけた
「倒れている人」
「通りすがりの人」

それぞれの役になって

人が倒れていたたら



まとめ

- 3.11下校で歩いている途中に地震が来た...
- 余震で電車が止まってしまった時...
- 先生の携帯が繋がらない時...

自分で判断そして行動へ

自分で自分の身を守るために → 考える習慣を

行動するために知っておく

災害時の「ほうれんそう」 → 実習や作業学習で

防災、災害ボランティアを目指して

地域とのつながりの中で → 誰にでもあいさつ

その他に

竜巻...

雷...

ゲリラ豪雨...

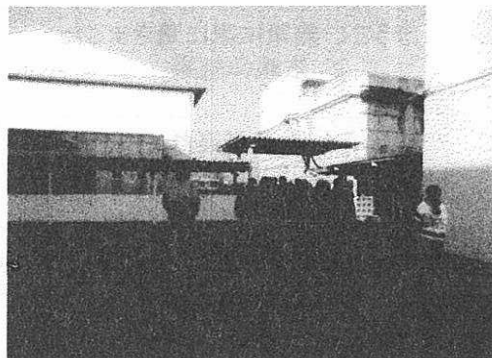
原因は？

- 地球温暖化... できることは

実体験ができなくても 追体験(つたいけん)で

- 見たものを(テレビ)
自分のこととして考えていく習慣
- 「信号は青で渡る」といっても
突っ込んでくる車もあるし
停電になったら信号はつかない
教わったことが全て正しいとは限らない
自分で判断できる力をつけよう

第2回(12/7) 高等部自主通学生徒集会



【緊急地震速報】



自分の身を守り

グループ毎に避難
「リーダーの意見に...」
「リーダーに意見を...」



【大津波警報】
3階の教室へ

グループ毎にどこに逃げたか報告

「僕たちは遠くに見える
陸橋の上へ逃げよう
と考えた」



「中空通路の下を通過して
いたけど...」
「逃げ方も考えよう」

冬休みに友だちと3Fゲームセンターへ



【自主通学生徒は
高等部の約半数】
率先して そして助ける側にも

「火災報知機が鳴り
エスカレーター
からは煙が...」
どうする？
・ハンカチで口を
・非常階段を探して
・シューターを探して
「二階が火の海だっ
たら？...という意
見も出ました」

高等部 総合的な学習の時間 演劇グループで

欽ちゃん&香取慎吾の全日本
仮装大賞に応募

書類審査を通り二次予選へ
仮装のタイトルは「東北パフェ」



宮城のいちご
福島さくらんぼ
岩手の牛乳で作ったアイス



残念だったけど

すごく緊張した中で
自分たちの思いを
表現しました

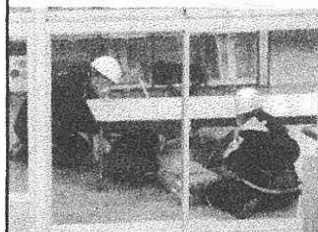
職員研修 避難シューター 車椅子運びシュミレーション



＜大津波警報を想定した避難訓練に向け＞
職員研修で 車椅子に乗ってみて
怖さを体験 向きや角度は



大津波警報を想定した避難訓練12月



- ・ 緊急地震速報
自分の身を守る
- ・ 大津波警報
高いところへ

小学部
車椅子の児童
＜乗ったまま＞



高等部 車椅子の生徒



「安全に安心して
避難できるように」

- ・ 触れられることに慣れる
- ・ 姿勢を保つ
- ・ 抱えられる時の体制づくり



重複の障がいがある生徒も

- ・ 安全に安心して避難できるように
- ・ 自立活動の時間の
＜環境の把握＞触れられることに慣れる
＜身体の動き＞姿勢を保つ
抱えられる時の体制づくり

【一人一人に合わせた防災教育】

○知識の獲得の仕方は一人一人違う
見てわかる生徒 聞いてわかる生徒
自分から質問をしてわかる生徒
やってみてわかる生徒

防災教育のポイント

～防災＝「命を守る」力を育てること～

- ①自分で判断そして行動へ
自分で自分の身を守るために
クロスロード等
(想定にとらわれない 正解はない)
- ②行動するために知っておく
災害時の「ほうれんそう」
～緊急時のコミュニケーション～
ブレーンストーミングやロールプレイング
- ③防災、災害ボランティアを目指して
個を尊重し認め合う 地域とのつながりの中で

新聞記事で紹介

千葉日報
(6. 10掲載)



パーティション作成を授業に

日本教育新聞
(7. 18掲載)



1. 17防災未来賞 ぼうさい甲子園

「だいじょうぶ賞」

安心・安全なまちづくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーンにちなんだ賞で防犯活動にも応用できる取り組みを対象にいただける賞。

主催：兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
○毎日新聞に関連記事の掲載
(12/17、12/27、1/10)

毎日新聞取材のインタビューの時に

●「以前と変わったことはありますか？」

○高3:石田さん

「地震が来たときに、すぐに窓を開けて逃げることができるように、窓から近い場所に寝る位置を変えました。」

○高3:太田くん

「人がちゃんというか安全の確認をするようになった(自主通学のリーダーとして)。危ないものの近くにいないように気をつけるようになった。」

●「どうしてそう思うようになったの？」

○「国崎先生の話聞いて、そう思うようになった。」

課題

(1)授業を通した取組については、高等部の生徒を中心に、防災を身近な問題として取り組む機運が高まり、中学部の生活単元学習や全校集会での取り組みも始まった。来年度以降への継続が課題である。

(2)東金市、社会福祉協議会、北之幸谷区とのネットワークができ、地域と共に取り組む防災教育の足場はできつつあるが、学区の2市4町への働きかけを、今後さらに進めていくことが大きな課題となる。

(3)本校は東金市の避難所に指定されているが、具体的な避難所開設の手続きや必要な物資等の確保については未定の状態にある。今後、県教育委員会の指導をふまえて、東金市との協議を進めていきたい。

まとめ

- ・地域との協働による防災教育の取り組みは始まったばかりであり、次年度も予定されている地域との合同での防災訓練等の取り組みを通して、障害のある児童生徒の命を守るための防災教育のあり方を実践的に検証していきたい。
- ・そして、その成果を、広く県内外に発信し、障害のある児童生徒に対する防災教育の推進に役立ちたいと考えている。
- ・また、この取組を通して、より「地域との絆」を深め、児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整え、創立40周年を迎えたい。

生徒会のテーマ

～つなげよう～ から思うこと

- ・過去～今～未来への(文化)
時間をつなぐ
- ・自分～家族～友だちや地域(ユニバーサル)
～チャレンジプランの仲間～
人をつなぐ
- ・学校～市役所～社会福祉協議会～県(地域)
組織をつなぐ
- ・授業や行事を防災教育でつなぐ(普段実践していることを防災という視点で見直す)

取り組みの継続 そして発展へ

PDCAサイクル

ユニバーサルデザイン



コーディネート
(特別支援学校センター的機能)
& コミュニケーション

普段の実践を防災の視点で
一人一人を大切にする防災教育

チャレンジプランに出会って 防災教育に関わり始めて

- ・防災は誰にでも必要なことである
- ・誰とでも どんな取り組みでも
防災教育を関連付けることができる
☆課題は温度差や地域差
- ・そこに命の大切さを実感する

防災(教育)の意識があれば
被災地への思いも消えない
今からできることも きっとある

2012年度防災教育チャレンジプラン 決定・発表資料

2012年度防災教育チャレンジプラン



千葉県立東金特別支援学校

防災コミュニティ&コミュニケーション

～北之幸谷から山武都市へ

「防災ユニバーサルねっと」を広げよう～



キーワード① 共助の連携強化

北之幸谷防災コミュニティ

- ・ 合同防災訓練を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。(アウトリーチの視点)
- ・ 特別支援学校の児童生徒や長寿会も参加できる避難所の開設訓練等を行う。
- ・ 講演会や防災安全マップ(ヒヤリハット)の見直し等を通して地域との情報の共有を図る。

キーワード② 公助の連携拡大

山武防災ユニバーサルねっと

- ・ 行政(県市町)と地域との橋渡し
地域振興事務所、市、町と地域自立支援協議会等
- ・ ユニバーサルに使える情報共有のネットづくり
在宅要援護者の携帯端末の利用(災害・避難情報のエリアメールや学校からの一斉配信メール等)
避難者カードの書式統一(市や町の行政間及び避難所となる学校等)
- ・ 被災地の特別支援学校等の実態調査
問題点の把握や連携の方法の検討

キーワード③ 自助・備えのチャレンジ

防災マルチパーティション 防災ピクトグラム

- ・ 授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る(発達段階)。
- ・ 一人一人の障害に応じた防災用具の開発に取り組む。また、開発した防災用具の地域での活用方法を検討する。
- ・ 危険個所や場所のマークだけでなく安心マークの検討(安心するデザインや色)

全体キーワード

コミュニケーション



お互いの名前を フェイス・トゥ・フェイス
あいさつは防犯にもつながる

取り組みの継続 そして発展へ

PDCAサイクル

ユニバーサルデザイン



コーディネート
(特別支援学校センター的機能)
& コミュニケーション

普段の実践を防災の視点で
一人一人を大切にする防災教育